

漁場等環境モニタリング調査

岡村貴司・前河孝志・幡野真隆

◆背景・目的

主たる漁場である琵琶湖北湖盆の漁場環境の動向を把握するための基礎資料とするために、継続して調査を行う。

◆成果の内容・特徴

○琵琶湖定点定期観測

- ・琵琶湖北湖5定点において、毎月1回、透明度、水温、pH、プランクトン沈殿量、DO、CODおよび栄養塩等の分析を行った(資料編参照)。
- ・St. IVの湖水温は2月調査では65mと底層(約80m)に0.6°Cの水温差がみられたが、3月調査では水温差はみられなかった(図1)。
- ・St. IVの溶存酸素量は2月調査時点では6.6mg/lと、近5カ年と比べて低い値であったが、3月調査では過年と同水準まで回復した(図2)。

○漁場環境保全推進事業調査

- ・ヨシ帯8カ所(天然、造成)においてヨシの密度調査を行った結果、昨年とほぼ同様であった。
- ・赤野井湾、彦根港沖、安曇川河口沖のイトミミズや貝類等の生息量は過年の変動内であった。

○漁場環境調査

- ・志那沖において、水質(窒素、リン)、底質(窒素、リン、粒度、AVS等)、ベントスの調査を行った。

◆成果の活用・留意点

- ・今後も継続して、漁場やヨシ帯の動向を把握するためのモニタリング調査を行っていく必要がある。

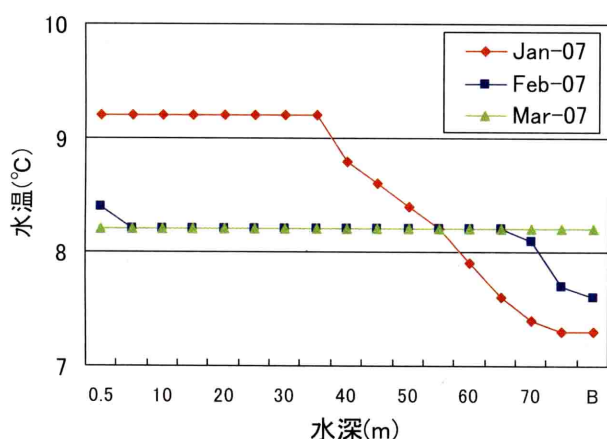


図1 定期観測St.IVの湖水温(2007年1~3月)

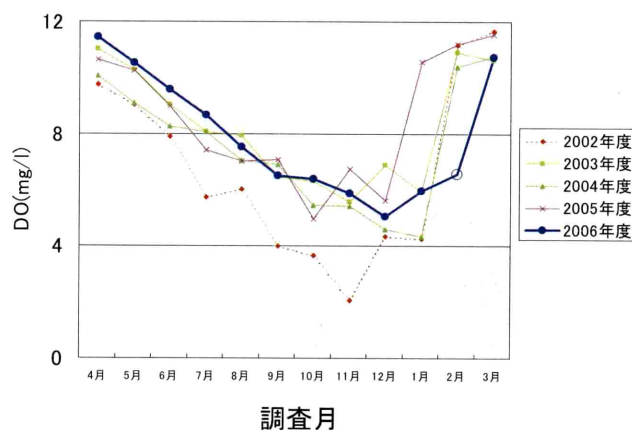


図2 定期観測St.IV底層のDO(2002-2006年度)